

① 県内初の高速道路、九州縦貫自動車道薩摩吉田～加治木間17.3*₀が開通
(昭和48年12月13日)

鹿児島の高速度路

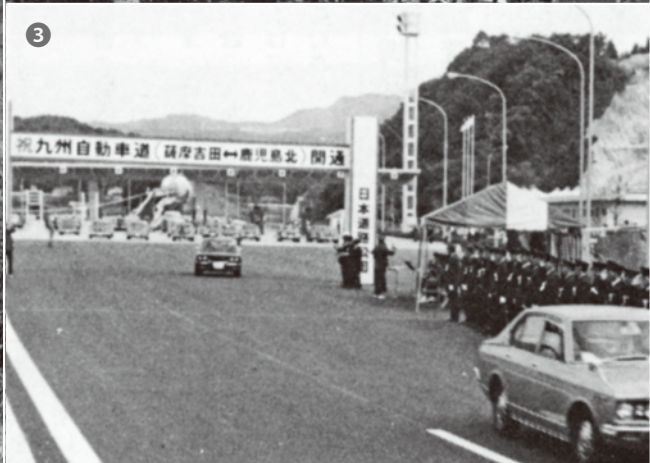
広域的な幹線道路整備で
交通ネットワークを形成し
「南の拠点かごしま」の
実現を図る

日本の高速道路の歴史は、昭和32年の国土開発縦貫自動車道建設法の施行から始まり、急速な自動車社会の進展への対応と戦後の復興・経済発展のための国家プロジェクトで、昭和38年に日本初の高速道路（名神高速道路の栗東IC（インターチェンジ）～尼崎IC）が供用されたのを皮切りに次々と高速道路網が整備されていきます。

鹿児島県の高速道路は、九州縦貫自動車道をはじめ、東九州自動車道、南九州西回り自動車道があり、空港や港湾などの広域交通拠点への連絡強化や農水産物の輸送の効率化、観光の推進や県民生活においても重要な道路となっています。

では、鹿児島県で初めて開通した高速道路は、どの区間だったのでしょうか。

九州縦貫自動車道の整備は、昭和40年代に入ってからで、鹿児島県内では昭和43年から建設に着手。昭和47年に鹿児島市鴨池から移転開港する鹿児島空港（旧溝辺町）と鹿児島市を結ぶ区間から整備が進められます。



② 開通にあわせて、雄大な桜島を望むサービスエリアも設けられた (昭和48年12月13日)

④ 溝辺鹿児島空港〜加治木間開通。これにより鹿児島市から空港まで約40分で行けるようになった (昭和51年11月29日)

⑤ 急ピッチで進む九州縦貫自動車道建設、吉田町本名川付近 (昭和48年)

③ 薩摩吉田〜鹿児島北間6.9*₀が開通 (昭和52年11月25日)

鹿児島特有のシラス土壌での道路作りのため慎重に工事が進められ、昭和48年12月13日に加治木〜薩摩吉田〜鹿島間の約17キロメートルが、県内初の高速道路として開通しました。

走り抜ければわずか10分程度の距離ですが、開通初日から1800台が利用するなど、大きな盛り上がりを持って迎えられました。

その後、県内では、昭和63年の鹿児島〜鹿島の開通まで整備が進められましたが、九州縦貫自動車道の全線開通には、最後に最大の難所が残っていました。鹿児島県と宮崎県の県境、加久藤カルデラの外輪山にトンネルを掘るといふ大がかりな工事で、地盤が軟弱なうえに、掘れば大量の湧水が噴き出すなどかなりの難工事でした。3年11カ月を費やし、全長6260メートルの加久藤トンネルが完成。平成7年7月27日に人吉〜えびの間が開通し、九州縦貫自動車道が全線開通となり、鹿児島県から青森県まで、約2150キロメートルの高速道路がつながりました。

鹿児島県初の高速道路が開通してから40年、鹿児島〜鹿島から薩摩川内市・出水市を経由して熊本県八代市まで伸びる予定の南九州西回り自動車道 (平成25年8月現在で薩摩川内市まで部分開通)、大隅半島から宮崎県、大分県、北九州市へとつながる予定の東九州自動車道 (平成25年8月現在で曾於弥五郎〜Cまで部分開通)、また、都城志布志道路や南薩縦貫道路など、志布志港や枕崎漁港などの拠点的な施設と生産地・消費地を結ぶ道路の整備を進め、鹿児島県内の高速道路をはじめとする広域的な幹線道路ネットワークの形成をめざし、今後も整備が進められます。

広告